新型コロナウイルス感染症の感染拡大による
山口県立山口博物館の運営への影響と対応

杉　江　喜　寿

Impact and response to the operation of the Yamaguchi Prefectural Museum due to the spread of the novel coronavirus(COVID-19) infection

Yoshihisa Sugie

山口県立山口博物館研究報告

第47号（2021年３月）別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.47（March 2021）

山口県立山口博物館研究報告　第47号　99～113頁　2021年３月

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による山口県立山口博物館の運営への影響と対応

杉江　喜寿[1)]

Impact and response to the operation of the Yamaguchi Prefectural Museum due to the spread of the Novel coronavirus(COVID-19) infection

Yoshihisa Sugie

１　はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴って、当館においてもさまざまな影響を受けてきた。大きなことでは臨時休館や体験的機器の使用中止、特別展やテーマ展などの期間変更などがあげられるが、他にもさまざまな場面、さまざまな分野で、現在に至るまで多大な影響を受けている。

この前例のないコロナ禍の中で、１年近く手探りで対応を続けてきたわけであるが、こうした困難の中で入館者・利用者数の激減、コロナ対策のための必要経費や業務の負担増、など厳しい現実を突きつけられる一方で、地域の核となる県立博物館としての原点を見つめ直すよい機会となった部分もあった。また、この状況の中で、来館者へさまざまな協力をお願いするなど細心の注意を払い社会情勢を鑑みながら、全職員が協力して様々な工夫や臨機応変な取り組みをすることにより、特別展などを運営してきた。

本稿は、この未曾有の世界的なコロナ禍の中で、当館の運営がどのような影響を受け、それに対してどのように対応してきたかを記録に残したものである。

２　新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて（概要）

2020年２月頃から世界に広がり始めた新型コロナウイルスであるが、最初の頃は対岸の火事的なところがあり、一時的には海外からの旅行客の数が減少するかもしれないがそのうちにおさまっていくのではないかとみられていた。

しかし、結果は現在に至る状況が示しているとおりに、まるで世界中が大災害に襲われたかのような状況となって今に至り、１年が過ぎようとしている。（2021年２月現在）

日本では、昨年２月中頃から感染拡大のいわゆる第１波が本格化し、３月から全国の学校の多くが臨時休校となったため、当館でもそれを受けて、３月３日から３月26日まで臨時休館と

１）山口県立山口博物館（学芸課長）

なり、普及講座や出前授業は原則中止した。（出前授業は、安全対策をした上で一部実施）
その後、春休みとなる３月27日から４月12日までは一時開館したが、一部の都道府県で緊急事態宣言が出されたこともあり、外出自粛が要請される中、入館者数は激減した。

４月16日㈭から山口県も含めて全国で緊急事態が宣言されたこともあり、再び４月14日㈫から５月24日㈰まで休館となった。

５月のゴールデンウィークが明けると徐々に感染者数が落ち着き始め、山口県を含む中国５県では５月14日㈭に緊急事態宣言が解除されたため、５月26日㈫から再び開館することができた。このときは一度中止になったテーマ展「自然の美　－植物画でみる日本を彩る花－」と併せて「～時の記念日100周年記念～　「時」展覧会2020」の２つのテーマ展を開催したためか、入館者数は一時的にかなり回復した。普及講座、社会見学は５月分まですべて中止し、６月から条件付きで再開した。社会見学については、７月まで申し込みはなかった。出前授業は、５月26日㈫から再開した。

この後、夏の当館の最大のイベントである特別展「生物の進化と恐竜ワールド　発見！探検！６億年のタイムトラベル」は、期間を後ろ倒しに変更して（８月７日㈮～９月22日㈰）無事に開催することができ、10月30日㈮からの「サイエンスやまぐち2020（山口県科学作品展）」についても無事に開催することができた。

その間、さまざまなコロナ対策を手探りで実施し、夏の特別展では初めて原則的にオンライン予約で入館制限をするということになったが、大きな混乱もなく終わることができた。５月からはバーチャル博物館（ミュージアム）を、７月からは地元の企業とタイアップした「すごいおもちゃコーナー」をそれぞれ開設するなど、新しい試みも次々と実現してきた。

令和２年度

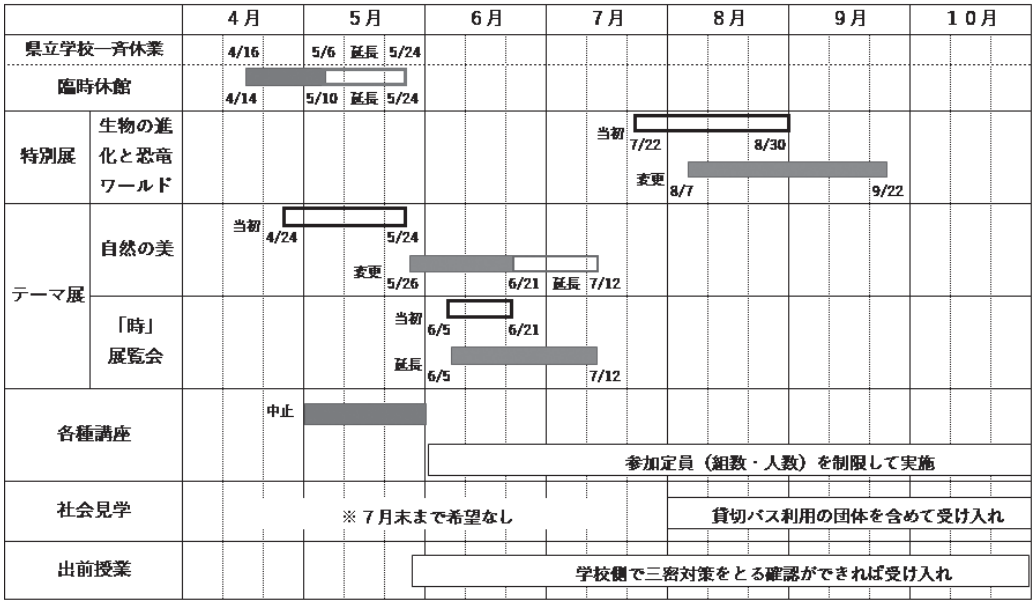


表1　コロナ対応まとめ（令和2年4月～10月）

12月４日㈮からは、今年度最後のテーマ展「情報通信技術革命」を開始し、2021年４月７日

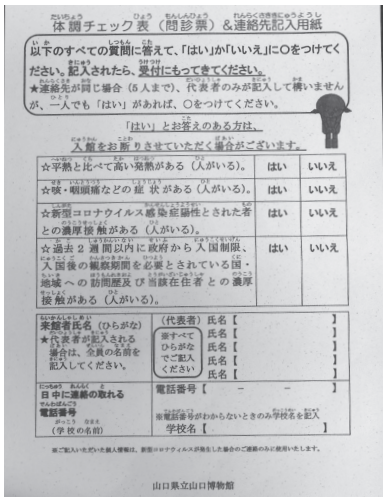
㈬まで開催する予定としている。（2021年２月現在）。

以上が、コロナ禍における当館のこれまでの取り組みの概要である。以下にそれぞれの具体的な対応について述べる。

３　具体的な取り組み

⑴　入館者への対応（特別展を除く通常開館時）

○入館時に、「体調チェック表（問診票）＆連絡先記入カード」の提出



体調チェック表（問診票）＆連絡先記入用紙

以下のすべての質問に答えて、「はい」か「いいえ」に○をつけてください。記入されたら、受付にもってきてください。

★連絡先が同じ場合（5人まで）、代表者のみが記入して構いませんが、一人でも「はい」があれば、○をつけてください。

「はい」とお答えのある方は、入館をお断りさせていただく場合がございます。

☆平熱と比べて高い発熱がある（人がいる）。	はい	いいえ
☆咳・咽頭痛などの症状がある（人がいる）。	はい	いいえ
☆新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある（人がいる）。	はい	いいえ
☆過去２週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある（人がいる）。	はい	いいえ

来館者氏名（ひらがな）
★代表者が記入される場合は、全員の名前を記入してください。

（代表者）氏名【　　】
氏名【　　】
氏名【　　】
氏名【　　】
氏名【　　】
※すべてひらがなでご記入ください

日中に連絡の取れる電話番号（学校の名前）

電話番号【　　－　　－　　】
※電話番号がわからないときのみ学校名を記入
学校名【　　】

※ご記入いただいた個人情報は、新型コロナウイルスが発生した場合のご連絡のみに使用いたします。

山口県立山口博物館

写真１　体調チェック表

写真２　受付前の記入場所

○入館時に、赤外線サーモグラフィ（自動体温測定器）での検温の実施

○館内でのマスク着用のお願い（持参していない人には、職員がペーパータオルで作成した簡易マスクを渡す。幼児などは除く。）

○入館時の手指の消毒や、こまめな手洗いの徹底の呼びかけ

写真３　自動検温機（ＡＩ）

写真４　館入口（消毒液設置）

○来館者の人数によっては、入場制限をする
（同時に各展示室20名、計120名程度）
○受付前には、間隔を開けて待つようにフロアマーカーを設置

⑵　特別展での対応

○オンラインによる事前予約を原則とし、入館者数の制限を行った。
（一組ずつ２分程度の間隔で入館し、一予約枠を20分として定員を設けた）

・事前予約は、スマホなどによるオンライン優先とした。手数料や使用料などの関係で決済についてはオンラインとはしなかった。
・当館の利用者は子どもから高齢者まで年齢層が広く、すべてオンライン予約にすると混乱することが予想されたので、オンライン予約は全体の８割程度とし、残りの２割程度は、来館しての当日予約による入館とした。（来館すれば別日の予約も可）。
・オンライン予約枠と当日予約枠の割合や１日の入館者の最大数については、来館状況に応じて適宜変更して対応した。特に会期後半は、オンライン対応に慣れてきたことや感染の広がりが見られなかったこともあり、最大数を若干増やすことができた。

＜予約枠について＞
開催当初の入館枠数195組（計780人）うちオンライン枠156組（計624人）
最終日の入館枠数　243組（計972人）うちオンライン枠182組（計728人）
期間中の土日、祝日のオンライン予約枠は、ほぼ100％の利用率であり、期間中のオンライン予約平均利用率は67,6％であった。（当日枠も含めた期間中の平均利用率は60.7％）
開催期間中（36日間）の入館者総数は、13,968人

・入館時にソーシャルディスタンスを確保するため、オンライン枠も当日枠も１組４人までとし、５人以上の場合は別枠の確保をお願いした。実質的には１枠当たり平均2.8人程度の利用であった。オンラインのシステムは市販のものを期間限定の契約として利用したが、一人ずつではなく組（４人まで）ごとの予約としたため、来館者の来館手続きを軽減できただけではなく、結果的には利用枠数が少なくなり、経費も削減できた。
・電話による予約は、行き違いなどのミスが多発すること、職員の負担が多大になること、などの理由により今回は実施しなかった。インターネットにアクセスできないなどの理由で電話による予約の希望が最初のころは１日に数件程度あったが、当日予約枠もあることを伝えるとほぼ混乱はなかった。県内では、本格的なオンライン予約による入館はまだ数館しか実施していなかったので、当館でも当初は相当な混乱が予想されたが、今回の展示に興味を示す来館者層に家族連れの若い世代が多く、オンライン予約に抵抗が少ない世代中心だったことも幸いであったと思われる。実際、高齢者が若い世代に予約を頼んでいるケースが多くみられた。今回のオンライン予約は比較的スムーズにできたが、展示内容や来館者の年齢層によってはプラス面とマイナス面のバランスを慎重に考える必要がある。
・当日予約枠については、１階に相談窓口を設置し職員が１～２名待機して対応した。オンライン予約の来館者についても入館時間の声掛けをすることで期間中大きな混乱はな

かった。ただし、その分職員の負担は例年よりかなり増えた。

・常設展では、入口で健康チェック表（問診票）を書いてもらっていたが、オンライン予約では、事前に申し込みメールで健康状態をチェックしてもらうことにしたので、スムーズに入館してもらえた。念のため、来館当日も入館時に検温と健康状態の確認の声かけを実施した。

写真５　入館手続き相談窓口

写真６　当日予約の様子

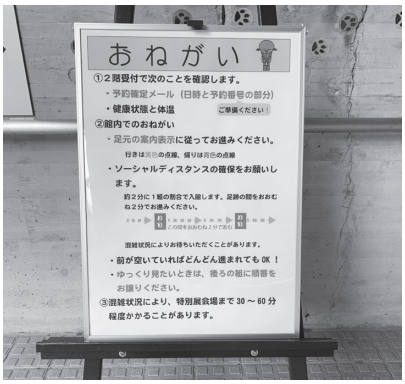


写真７　入館前の注意事項

写真８　組ごとに分かれる来館者

＜オンライン予約時の受付完了メールによる質問内容＞

新型コロナ感染防止のための確認事項⑴、及び個人情報の取り扱いについて⑵

※【⑵は省略】

⑴　新型コロナ感染防止のための確認事項

・一週間以内に（37.5℃以上）の発熱

・咳・痰・喉の痛みがある

・息苦しさや強い倦怠感がある

・嗅覚・味覚に異常を感じる。

・本人または同居人で２週間以内に海外から帰国した人がいる。

来館当日に、以上の条件にあてはまる、またはあてはまる同行者がおられる場合は、来館されないようにお願いします。

○館全体の動線設定と間隔保持のための誘導サイン、フロアマーカー設置
○３階の特別展入口にも、赤外線サーモグラフィ（三脚タイプ）を設置

写真９　誘導サイン

写真10　フロアマーカー

写真11　赤外線サーモグラフィ

○火曜日も休館とし、清掃業者による館内の消毒徹底

当初より開催期間を長くしたこともあり、またコロナ対策のための清掃・消毒の徹底の必要性が増したこともあるので、月曜日に加えて、火曜日も休館とした。夏休み期間であるため、間違えて来館されるケースが多発する恐れもあったが、オンライン予約中心であったため、火曜日も予約できない仕様にすることができ、幸いにも混乱なく終えることができた。オンライン予約による思わぬメリットであった。

○開催期間の変更

開催期間は、当初の「７月22日㈬～８月30日㈰まで」から「８月７日㈮から９月22日㈫まで」に変更した。

コロナの影響による小中学校などの夏休み期間の短縮（山口県では８月上旬からの開始が多数）に伴って、開催期間を20日程度後ろ倒しに変更した。コロナ対策のため、直前になって大幅に展示内容を変更したのでそれでも準備がぎりぎりになったが、お盆と秋の４連休（シルバーウィーク）という時期に開館できたことは、結果的にはよかった面もある。これまでも夏休みの前半（特に７月中）は、近年は特に異常な高温が続き、台風や集中豪雨による被害なども多く、また７月中は子どもたちも何かと学校に登校することが多かったので、この時期の開催を思案していたところであった。今回、思い切って８月上旬開催にしたところ、開催中にそこまでの異常高温や台風による臨時休館もなく無事に終わった。来年度の特別展は、展示内容がどちらかといえば高年齢者層向けで、また７月下旬から東京オリンピックが予定されていることもあり、今年度同様に８月上旬開始にして、酷暑を少しでも避けられるように計画中である。

⑶　テーマ展・サイエンスやまぐち2020への対応

①　植物分野テーマ展「自然の美　－植物画でみる日本を彩る花－」

当初の計画にあった主に子どもたち向けとして用意していたもののうち、接触の多い自然の木を生かした積み木の利用、手でめくる形式のクイズ、屋外の顔出しパネル（フォトスポット）設置を中止した。

本や冊子については図書館などと同じ扱いということで、手指消毒を前提に消毒液を展示室付近にも設置することで閲覧可とした。

また、５月１日㈮から「バーチャル博物館（ミュージアム）を当館ホームページ上に初めて開設した。

開催期間は、当初の４月24日㈮～５月24日㈰までから、５月26日㈫～７月12日㈰までに変更した。

②　天文分野テーマ展「～時の記念日100周年記念～　「時」展覧会」

準備の最終決定段階で、すでに新型コロナ感染症の拡大がある程度予想されていたので、大きな混乱はなかったが、「時間」を体感してもらうために体験コーナーとして予定していた、いろいろな時間の砂時計に触れるコーナーは中止した。

開催期間は、当初の６月５日㈮～６月21日㈰までから、終了を延長して、７月12日㈰まで開催した。

③　サイエンスやまぐち2020

・科学作品展は、開会式・表彰式を一部縮小したこと以外は例年通り開催できた。見学は、他の常設展などと同じ対応とし、昨年までと同じく展示されている冊子についてはさわって見てよいが、工作物についてはさわらないことを徹底した。

写真12　会場入口（消毒液設置）

写真13　開会式（ソーシャルディスタンスの確保）

・科学研究発表会については、参加者が一堂に集まる発表会や表彰式は中止して、ＤＶＤによる映像提出をもとに審査会のみとした。初の試みでＤＶＤの保存形式の不徹底などがあったが、大きなトラブルはなく終えることができた。

④　理工分野テーマ展「情報通信技術革命　～コンピュータの誕生からＡＩまで～」

理工体験コーナーの一部再開を受けて、このテーマ展においても一部体験できる機器を準備した。また受付での接触を極力避けるようにワークシートやスタンプラリーなどは中止していたが、今回のテーマ展では、リレー計算機がどのように演算するのかを体験できる２進数のカードを受付でビニール袋に入れた状態で配布することにした。

⑷　当館の行事や活動における感染防止の取り組み

○展示観賞中心とし、体験型・接触型の機器は一部を除き使用中止。

（ＶＲ機器、山口線運転シミュレーター、理工体験コーナーなど）

当初は、体験型・接触型の機器すべて使用を中止していたが、コロナの流行の状況を見ながら、触れる場所が限定的で消毒しやすいものから順次利用を再開した。

展示室への消毒液の設置、紫外線による殺菌消毒装置の設置、抗菌作用のあるコーティング剤の塗布、こまめな消毒・清掃などで対応し、社会見学での利用については消毒液の

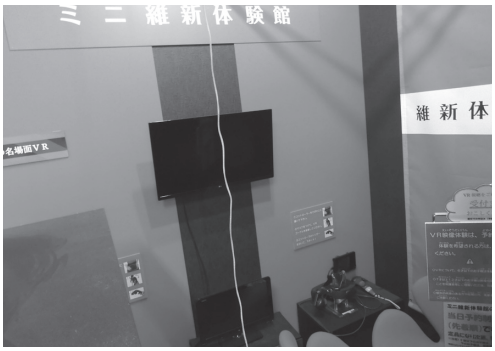


写真14　ミニ維新体験館の中止

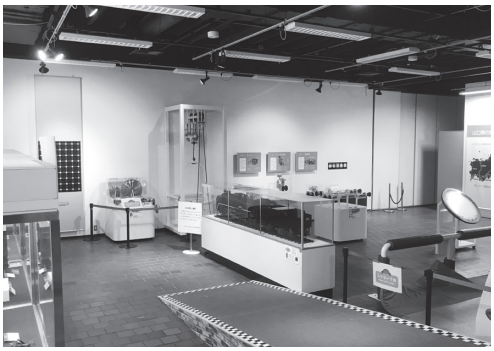


写真15　理工体験コーナーの閉鎖（当初）

写真16　太陽系運行模型の中止

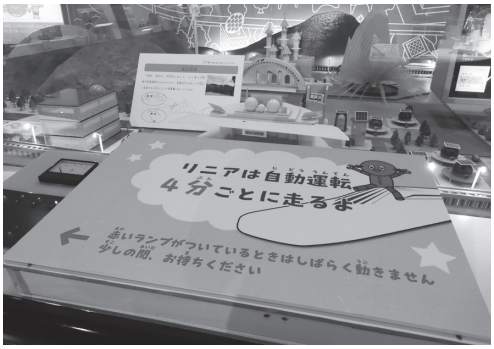


写真17　リニアモータカーなどの中止

写真18　錯視コーナーの設置（当初）

写真19　触れなくてできるクイズの設置

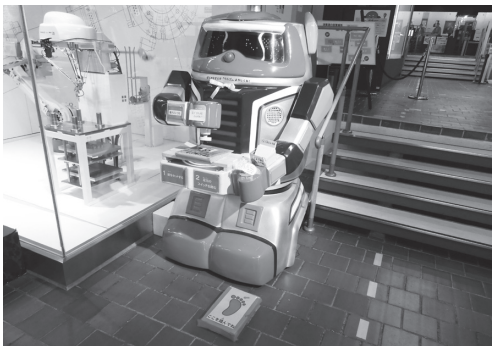


写真20　スタンプロボ
（足で操作するように改良）

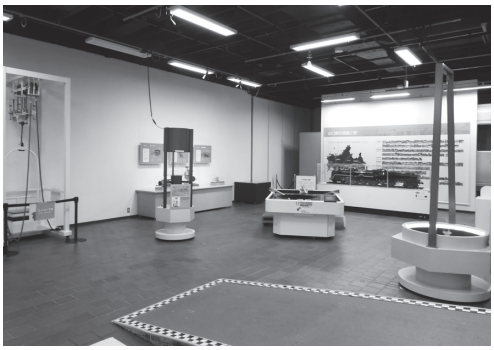


写真21　理工体験コーナー
（消毒しやすいものから一部再開）

写真22　スイングバイテーブル（全景）

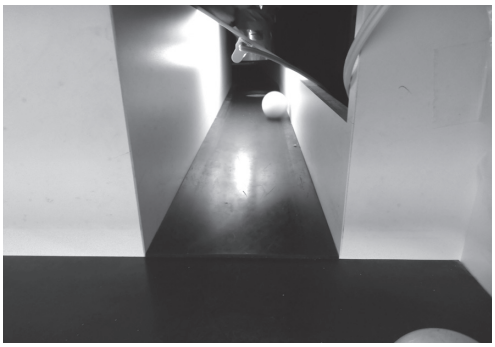


写真23　紫外線によるボールの殺菌

持参を条件に、利用の可否を利用団体の判断によるものとした。
（スイングバイテーブルは、ボールの通り道に紫外線ランプを設置して殺菌できるように改良した。）

○教育普及講座について

・５月の４講座は中止した。

・６月以降の講座は、組数制限・人数制限、マスク着用、消毒などの対策のもとで実施した。特に人数については、講座室などの広さの関係もあり組数（グループ数）を制限して、家族同士はよいが、他人同士が接近しないようにした。
屋内では、８組20人までとし、屋外である屋上で実施するため自由参加にしていた天文

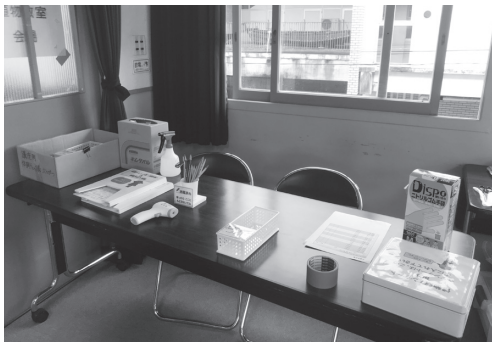


写真24　講座受付（赤外線体温計など）

写真25　講座室の定員を制限

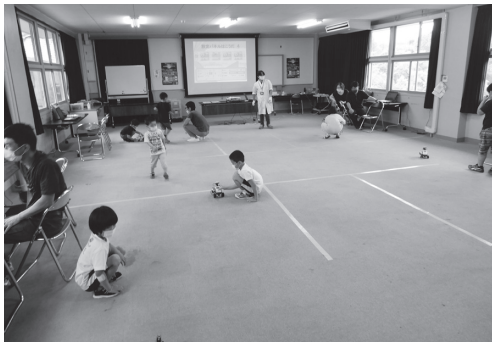


写真26　3密防止と機器共有の禁止

写真27　参加者の3密防止

の講座も10組40人までとした。野外の講座については、10組20人までとした。（2021年２月現在）

○社会見学など団体での来館について

・８月以降は、人数制限、マスク着用、消毒などの対策のもとで実施

＜社会見学・職場体験＞

・社会見学については、これまでの様に同時に数校が申し込んできても可能な限り受け入れるのではなく、各学校の見学時間が重ならないようにして、１つの学校が見学した後に、手すりや使用した機器の消毒ができるよう１校ずつ見学時間をずらした。そのため１日の利用校数はこれまでより減少した。

・社会見学などの団体利用では、入館時に健康チェック表（問診票）を記入すると時間がかかり混乱するので、事前に各学校が健康チェック表をメールで送信して、スムーズな入館ができるようにした。検温も入り口のサーモグフィではなく、携帯式のサーモグラフィを３台用意して対応した。入館後も団体には、各自持ち込んアルコールで、一部使用可能とした体験機器の使用については各学校の判断に任せ、使用前後に必ず持参したアルコールでの消毒をお願いした。

・基本的には１つの展示室の見学者を20人程度までとし、通常は全館で120人までとした。そのため、100人を超す大規模校については、半分ずつの入館やグループごとの入館とした。それにより、１日あたりの入館者数は減少した。

写真28　小グループでの解説

写真29　見学時の3密防止

写真30　講座室の定員を3分の1に

写真31　距離をとって体験活動

・職場体験については、ほとんど申し込みはなかったが、実施した場合は常にソーシャルディスタンスの維持を心掛けた。

＜教員のための博物館の日＞

毎年、教職員の夏季休業中に開設している人気講座「教員のための博物館の日（教員１日体験研修）」は、定員を今までの一日36人（３日で計108人）から、３分の１の12人（３日で計36人）に限定して開催した。講義や授業体験はもちろん、館内見学時においてもソーシャルディスタンスを保って実施した。

○出前授業、教材貸出など

<出前授業＞

・出前授業は、８月から人数制限、マスク着用、消毒などの対策のもとで実施した。会場については狭い教室ではなく、体育館や多目的ホールなど広く換気ができる場所での活動をお願いした。教室しか空いてない場合はお断りすることもあった。

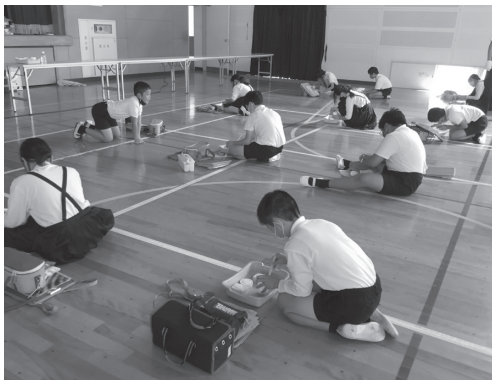


写真32　広い体育館での授業

写真33　紙コップをあてて観察

・天体観測の出前授業では、望遠鏡に直接触れなくてもいいように、紙コップを使って接眼レンズをのぞくなど、工夫をして実施した。

＜教材貸出＞

・教材貸出は５月末から一部実施したが、これまでのように連続して貸し出すことは中止し、１つの学校に貸し出した後、原則一週間あけてそれぞれの機器を消毒してから貸し出すこととした。

○サポーター活動について

・休館中は活動を中止していたが、当館にとってなくてはならない活動であるため、再開館時からコロナ対策のもとで実施した。

○レファレンス活動について

・休館中は原則電話やメールでの応答とし、その後来館される場合はマスク着用、消毒などのコロナ対策のもとで実施した。

○ワークシート・やまはくスタンプラリー2020は中止

・館内のワークシートとそれに取り組んだ記念としてカードを渡していたサービス、2020年度の「スタンプラリー」は、今年度は窓口での接触を減少させるために中止した。（昨年度スタンプラリーのカードは1500枚配布）

⑸　当館内における感染防止の取り組み

○館内スタッフの健康管理について

・出勤時における、検温、健康状態の確認

・マスク着用、こまめな手洗いとアルコールなどでの消毒の徹底

・休館中を中心に在宅勤務を実施し、職員を２～４班に分けて交代制勤務を実施

○館内の換気について

・入口の常時解放や外気導入設備による定期的な換気の実施

・展示室に換気用サーキュレーターを新たに設置し、館内の換気効率の向上

・展示室に空気清浄機を新たに設置し、館内の空気環境の向上

写真34　サーキュレーター

写真35　空気清浄機

○消毒

・手指消毒液の設置（展示室内３か所程度）、他に手洗い用洗面台１か所

・来館者エリアの清掃強化、イスや手すり等、共用部分の消毒

○そのほか

・休憩イスの使用制限（ビニールカバーの設置、２人掛け禁止など）

・受付窓口に飛沫防止のためのアクリル板設置

・学習コーナーでは、ぬり絵などができないように机を撤去した。

写真36　受付の大型アクリル板

写真37　ベンチカバーと人数制限

写真38　学習コーナー１（机・ぬり絵撤去）

写真39　学習コーナー２（消毒液）

⑹　学校の休校や外出自粛などへの対応

○「バーチャル博物館（ミュージアム）inやまはく」の開設

コロナ禍で来館できない人や休校などにより家庭で過ごす子どもたちが増えたことを踏まえて、来館しなくても会場の雰囲気を味わい、クイズなどで学習もできるなど、少しでも興味をもってもらえるように、当館ホームページ上に「バーチャル博物館（ミュージアム）inやまはく」を開設した。

これはもともと、離島や山間部でなかなか来館できない子どもも含めた県民のために開設する計画であったが、今回前倒しで進めたものである。

（内容）

①「植物画でみる日本を彩る花」（５/１～）

②「時」展覧会2020（６/26～）

③「日食を見る会」（６/26～）

④「すごいおもちゃコーナー」（８/21～）

写真40　ホームページ（トップ画面）

写真41　バーチャル博物館１

写真42　バーチャル博物館２

写真43　バーチャル博物館３

４　おわりに　～withコロナ、afterコロナの時代へ～

2019年度末から始まった新型コロナウイルスの感染症の拡大は、今のところとどまる気配は見られない（2021年２月現在）。当館においても2020年３月の臨時休館以来、この１年はコロナの影響と対応で振り回され続けている。

コロナ禍の直接的な影響としては、臨時休館などによる来館者を含む利用者全体の低迷と、それによる収入の大幅な減少、収入が減少しているにも関わらず増大するアルコールや空気清浄機の購入などによる対策費の増加、対策の周知やその実行による受付業務を含めた各種業務の大幅な増加等が挙げられる。

県立の博物館である当館でも、以前から運営費の削減と収益の増加が大きな課題とされていた中でのこのコロナ禍によるダメージはかなり大きいものがあり、今後の館の運営にどのような影響が出るのか、測りきれていないのが実情である。県や国の財政状況がますます厳しくなることが予想される中で、悲観的な見通しにならざるを得ない。実際この老朽化した館の建て替えなどますます遠ざかってしまった感がある。

また、収支などの直接的な影響だけでなく、今後の厳しい経済状況や消費の冷え込みの中で世の中全体に余裕がなくなってくれば、博物館に限らず、文化や芸術のさまざまな取り組み全般に対して心理的なブレーキがかかることが予想される。生活の維持に直結しないものへの優先度が下がることで、文化や芸術の維持や振興に、そしてこれらに参加し関わること自体に抵抗感が生じかねないのである。これは、すぐには数字に表れにくいが、文化や芸術に親しむ人々の減少に合わせて、これらに対する理解の低下は必定であり、今後長く尾を引くことになるかもしれない。

そんな厳しい状況であるが、社会教育施設の１つであるとともに文化や芸術の一翼を担う立場にあるものとしては、そのような流れにささやかながらも一竿をさしていきたいと思うところである。確かにこの１年は未曾有の事態に翻弄され続けてはいるが、例えば地方の博物館ならではの、博物館が地域に果たす役割を見直すことができたのも事実である。ただ単に休館に

したり利用制限をかけたりするのではなく、何かできることはないか、何か１つでも利用者にサービスできることはないかと考え、感染リスクなどとのバランスを考え続けて実行してきた１年でもあった。

これまでであれば、忙しい、時間がない、費用がない、やったことがない、などの言葉を並べてできなかったことでも、とりあえず取り組んでみよう、チャレンジしてみようということで、皆が知恵を出し合って１つ１つ前に進んできている。展示内容や期間の変更だけでなく、バーチャル博物館にしても、特別展のオンライン予約にしてもこれを機会にそれほど費用をかけずに一気に進めることができた。（この分野の知識・経験のある職員がいたことも幸いであったが）。

例年混雑する特別展では、予約による入館制限をかけたことにより入館者数は減ったが「お盆などの混雑期でもゆったり見ることができた」と、大変好評であった。特別展の内容についても、近年はどうしても来館者数増を求めることを考えて、家族連れでも楽しめて特に小学生以下の子ども向けの体験型展示という方向性であったが、今回は体験がなかなかできないということで内容を見直し、少し学術的な方向へシフトした。それにより幅広い年齢層の来館者の評価が上がり、オンライン予約の関係で引率者を含めた少人数での来館が増えたこともあって、有料率が大幅にアップした。そのため来館者数の減少を入館料的には補うことができた。また、１日の来館者数の最大数をコントロールできたことで、混雑時の職員の勤務、警備や監視員のシフトなどが予想でき、対応に余裕が生まれたという副産物もあった。

また、コロナ対策関連として国や県が取り組んでいる事業への応募も進めており、いくつかは年度後半になって、すでに具体化している。これらによりさまざまな場面でのデジタル化、オンライン化が進むことを期待している。そのうち、文化庁の文化芸術収益力強化事業の１つとして採択された「ミュージックミュージアムｉｎバーチャルやまはく（MMやまはく）」推進事業で作成した映像は、2021年2月から当館ホームページ上で公開しており、展示室で開催したクラシックコンサートを鑑賞したり、展示室内を3Dでウォークスルー体験したりすることが、バーチャルでできるようになっている。これらの詳細については、また別の機会に報告したい。

これまでのところ、このコロナ禍の中でさまざま影響を受けながらも特別展や３回予定していたテーマ展、科学作品展のすべてがどうにか開催できている（最後のテーマ展終了は2021年４月）。今後の情勢次第ではスケジュールや展示内容などの変更を余儀なくされる場合もあるが、コロナ感染予防に細心の注意を払いつつ、社会教育施設として少しでも県民を始めとする利用者の期待に応え、博物館の存在価値を高めていくことが、結果的には文化や芸術全体の維持、振興につながるものと考え、今後も努力や工夫を続けていきたい。いずれにしても一刻も早いこのコロナ禍の終息を願うばかりである。

以上、コロナ禍における当館の運営への影響と対応を述べてきた。日々手探りで対応を進めている関係者の皆さんに、少しでも参考になれば幸いである。